

5-1 肺炎（はいえん）

高齢者の肺炎は、通常のかぜ症候群によって発症する場合と、脳血管障害などで誤嚥によって起こる場合がある。

ウイルスによる場合と細菌などによる場合がある。

肺炎は日本人の65歳以上の高齢者の死因の第5位である。

主な 症状	<ul style="list-style-type: none"> ● 呼吸困難、発熱、悪寒、咳、痰、胸痛、全身倦怠感。 ● 酸素不足のため肩で呼吸する、あえぎ呼吸する、顔色が悪くなる、指先が青くなる。 ● 高齢者には、肺炎の典型的な症状（発熱、咳など）が出にくいのが特徴。 ● 食欲不振や意識障害がでることもある。
生活 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ● 十分な食事と休養＋運動で基礎体力をつける。 ● 手洗い、うがい、必要時のマスク着用を心がけ、感染予防に努める。 ● 肺炎球菌の予防接種をうける。 ● インフルエンザから肺炎を合併する可能性があるためインフルエンザの予防接種をうける。 ● 普段から体温を測定しておく。38℃以上の高い発熱があれば肺炎の可能性がある。 ● 食欲がない、元気がない場合は注意する。 ● 誤嚥性肺炎の場合は急変の可能性があるので、早く受診をする。 ● 毎日の口腔内の清潔保持を行い、誤嚥性肺炎を予防する。 ● 飲食の際は必ずベッドを起こすなど体位を調整し、誤嚥を予防する。
ケ ア マ ネ ジ メ ン ト の ポ イ ン ト	<p><支援者の留意点・視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢になるほど熱や咳、痰などの症状が出にくく進行がはやいため、「なんとなく元気がでない」「食欲がない」などのわずかな変化を見逃さずはやめの受診を促す。 ● 脳血管障害や糖尿病、心筋梗塞などの合併症による基礎体力の低下が肺炎の発症を促進するので、注意する。 ● 誤嚥性肺炎は繰り返す場合が多いため、食事時の姿勢・形状を考え、誤嚥しない工夫が必要。 ● 肺炎時の家族・事業所の対処の仕方を主治医から指導を受け、それでも症状が治まらない場合の対応を確認しておく必要がある。 ● 高齢者の肺炎は治療期間が長くなりがちで寝ている時間が長くなるので、症状が改善されてきたら、なるべく身体を動かすことを勧める。 ● 肺炎球菌の予防接種：65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100歳が定期接種。無料で受けられる。対象者には神戸市より案内が郵送されるため、接種のタイミングを逃さないようにする。詳しくは神戸市ホームページを参照。 ● インフルエンザの予防接種――生活保護、非課税世帯など無料対象となる場合がある。手続等、詳しくは神戸市のホームページを参照。 <p><介護サービス事業者・医療関係者との連携のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普段の体温を理解し、高い発熱時の対応を家族、主治医と決めておく。 ● 状態にあった誤嚥しにくい食事形態・姿勢に気をつける。 ● 訪問歯科との連携など、適切な口腔ケアが受けられるよう支援する。
代 表 的 な 薬	<ul style="list-style-type: none"> ● マクロライド系抗菌薬（クラリス、ジスロマックなど） ● ニューキノロン系抗菌薬（クラビットなど）